



学校だより

横浜市立大鳥小学校

令和元年12月3日 発行

おおとり

12月号

学校教育目標

〒231-0806 中区本牧町1-251
学校長 水島 貴志 TEL 621-7700

はばたく子

◆やさしい子

◆たくましい子

◆かしこい子



「人権週間」に寄せて

校長 水島 貴志

一雨ごとに、冬の寒さが増す季節になってまいりました。子どもたちともども、保護者・地域の皆様におかれましても、体調管理に気を付けていただき、風邪やインフルエンザ、感染性胃腸炎などの病気の予防を心掛けていただきたいと思います。

さて、年の瀬まであと1か月、というこの時期に、本校3年生は大きな二つの発表会に参加することとなりました。一つは11月26日に県立音楽堂で行われた中区児童音楽会、もう一つは同30日に横浜文化体育館で行われた横浜市立小学校体育実技発表会です。区音楽会は、本校では毎年3年生が参加しているもので、今年の演目は『空にジャンプ！』と『世界でひとつのハーモニー』。特に高音の出し方を練習したそうで、当日朝、体育館での校内発表でもお聴きいただけたように、いやそれ以上に、音楽堂全体に美しい高音が響き渡りました。体育実技発表会は中区の代表として参加するものなので、10校あるうちの1校しか出られない貴重な経験となります。演目は、「表現運動『未来へとばそう にじ色紙ひこうき』」。当日のパンフレットの解説には、こう書いてあります。



「一人ひとりがやりたい思いをもち、認め合い、協力して練習をしてきました。みんなの夢が叶う大鳥小学校を、学年目標の『紙ひこうき』にのせて、心を一つに表現します。

100周年、そして未来までとんでいけ！」

前々日、2回に分けた体育館での校内発表で他学年の友達の大きな声援を受け、当日子どもたちは自信をもって文化体育館に乗り込みました。そして、時には一人ひとり思い思いの紙飛行機になって飛び回り、時にはみんなで動きを合わせて大きく表現するなど、広い文化体育館の床を動き回って輝く姿を見せてくれました。来年度100周年を迎える学校、夢が叶う学校、そんな大鳥小学校らしい発表だったと思います。

(次頁へ)



(前頁より)

ところで私は、3年生が区音楽会で歌ってくれた歌の一つ、「世界でひとつのハーモニー」がとても気に入り、大好きな歌の一つになりました。それとともに、12月4日から10日に世界中で取り組まれる「人権週間」にぴったりの曲だな、と感じています。特に2番の歌詞がすてきです。

「涙のわけを知りたいから あたたかな陽がさしこむまで きみのそばにいるよ
いっしょに歌う このメロディーは いつも力をくれた きみへの贈り物
やわらかな気持ちと とがった気持ちが とけあって つながって やさしさに変わる
ぼくの声とどけるから きみの声も聞かせてよ
世界でひとつのハーモニー ひびけ空高く とどけ 明日へ」

「人権」とは、「人間であるという理由だけで保障されるべき権利」と定義されます。「安心」して、「安全に」そして「自由に」生きる権利は、性別や年齢に関係なく、だれでももっています。ただしその権利は、他者の権利をおびやかさない範囲で、というのが前提なので、自分の人権を大切にするのと同時に、他者の人権も大切にする必要があります。しかし、「人権が大切にされているか否か」は、「当事者がどう感じているか」ということにつながるのです。外側からは見えにくい場合があります。さらに、圧倒的多数の人にとっては、当事者がなぜ困っているのか、なぜ人権が大切にされていないと感じているかがよくわからない場合もあります。そこで、ある憲法学者は、「人権問題を考えるためには、困っている側の主張に耳を傾け、なぜ困るのか、どれだけ困っているのかを『想像する力』を持つことが大切で、自分とは異なる人の立場になって考えることが人権問題を考えるきっかけになる。」と言っています。

「やわらかな気持ちと とがった気持ちが とけあって つながって やさしさに変わる」

人が人とかかわる中では、楽しいことばかりではなく、時には困ったことも起きるでしょう。そんな時は、お互いの気持ちを知って分かり合うことが解決に向かう近道だと思います。

「涙のわけを知りたいから あたたかな陽がさしこむまで きみのそばにいるよ」

相手の気持ちを想像する、わかろうと努力する、それが本当のやさしさにつながるのではないのでしょうか。そして、お互いが分かり合えた時、

「世界でひとつのハーモニー ひびけ空高く とどけ 明日へ」

と感じられるのだと思います。

11月17日に行われたボランティア大鳥のイベント『ふれあいeye 愛 本牧オリエンテーリング』では、本校の子どもたち数名が、視覚障がい者の方々と触れあいながら学区を歩きました。はじめは「うまく誘導できるだろうか。」と緊張した面持ちの子どもたちでしたが、お話ししながら歩くうちにその緊張も解け、和気あいあいと歩くことができ、解散した後も別れを惜しむ姿さえ見られました。きっと、寄り添いながら異なる人の立場になって考え、動くことで、「想像する力」を十分に発揮し、さらに養うことができたことでしょう。

11月の朝会でも話したように、大鳥小学校の子どもたちは人の話をしっかり聞ける、つまり相手を尊重できる子が多いと感じています。この「人権週間」をきっかけに、相手の気持ちを考える想像力をさらにふくらませ、クラス全体、学年全体、さらには学校全体で一つのハーモニーを奏でられるようになってほしいな、と思います。そして保護者・地域の皆様には、12月中旬の「わくわくワールド」でそのハーモニーを聴いて、感じていただければ幸いです。

たくさんの方々のご来校をお待ちしております。

